

委員からの質問・意見（新規）

委員から文書で提出のあった質問・意見は添付のとおりです。

目次

(1)	道津 靖子	委員提出	2
(2)	梶村 龍太	委員提出	5
(3)	江頭 潔	委員提出	11
(4)	神田 京子	委員提出	12

《BSL-4 施設で行う実験の報告をしてほしい》

以前大学に、既存の BSL-3 施設でどのような実験が行われているのか情報開示を求めたが、黒で塗りつぶされた資料が提出され、実験室の中で行われていることが全く分からないという不安があった。勿論、安全警備上、出せない情報もあることは理解できるが、出せる情報のラインを決めて住民へ実験の報告を行って欲しいと要望します。

添付資料は、武蔵村山の国立感染症研究所が住民へ提出した実験報告書「高度封じ込め施設内で実施されている作業内容に関する報告」である。

実験の目的・実施期間・実験内容・今後の実験についてなど、住民にわかりやすく報告されている。一番大事な事、2 ページ目の表であるが、実験室機能、作業人数と作業時間、滅菌処理、特記事項の記載である。

つまり、一連の実験が安全に完了したことを住民側も確認でき安心につながるのではないかと感じた。

長崎大学にとっても、住民側に報告書を提出することで、人的ミスからのリスクシナリオの大きな要因である研究者のルール遵守の意識低下を防止することにもなるのではないのでしょうか。

是非ともご検討頂きたいと思います。

以上

高度封じ込め施設内で実施されている作業内容に関する報告

国立感染症研究所

ウイルス第一部長 西條政幸

ウイルス第一部第一室長 下島昌幸

○サルを用いた重症熱性血小板減少症候群ウイルス遺伝子発現組換えワクシニアウイルスのワクチン効果の検討

目 的：SFTS の霊長類モデルを用いて、得られているワクチン候補の効果を検討すること

実施期間：2019年3月～（作業の人数や要した時間は別表にまとめた）

作業内容：ワクチン候補を霊長類（サル）に2度接種して、続いてSFTSウイルスを感染させ、SFTSウイルスに対する免疫が誘導されているかどうかを調べた。ワクチン候補の霊長類におけるSFTSウイルス感染症予防効果を調べた。

今 後：採材し保存している各種サンプルの解析を順次行う。

備 考：作業期間中、暴露事故等は発生せず、施設稼働環境も適切に維持された。

(別表)

作業年月	実験室機能	作業人数	作業時間 (およそ)	作業内容	滅菌処理	その他特記 事項
				サルを用いた重症熱 性血小板減少症候群 ウイルス遺伝子発現 組換えワクシニアウイ ルスのワクチン効果 の検討		
2019年3月	問題なし	2	2	○		特になし
	問題なし	4	0.5	○		特になし
	問題なし	3	2.5	○		特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
2019年4月	問題なし	3	1.5	○		特になし
	問題なし	2	2	○	○	特になし
	問題なし	2	1.5	○	○	特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	4	3	○(病原体使用)	○	特になし
	問題なし	4	3	○	○	特になし
	問題なし	2	1	○	○	特になし
	問題なし	5	2.5	○	○	特になし
	問題なし	2	1.5	○	○	特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	2	1	○		特になし
	問題なし	5	2	○	○	特になし
	問題なし	2	1.5	○		特になし
	問題なし	8	5	○	○	特になし
	問題なし	5	3	○	○	特になし
	問題なし	2	2	○	○	特になし
	問題なし	2	1.5	○	○	特になし
	問題なし	2	1.5	○	○	特になし
	2019年5月	問題なし	2	1	○	○
問題なし		2	1	○	○	特になし

○ご質問・ご意見

氏名（ 梶村委員 ）

高谷副会長からの意見・質問書です。

よろしく申し上げます。

2020年11月5日
平野町山里自治会副会長 高谷智

第32回地域連絡協議会への意見・質問書

10月14日開催の第32回地域連絡協議会を地域住民として傍聴した。
以下に意見と質問を述べる。

1. 建設工事作業員の喫煙問題について

会議冒頭、施設建設工事に関して、『現場作業員が近隣の不適切な場所で喫煙しており、地元の住民から度々苦情が出ている』との指摘が道津委員他からなされた。

この問題について、長崎大学は一応の謝意を述べたものの、問題解決のための方策は何ら説明が無かった。調議長曰く「この問題は懲りずに何回も言い続けることである」とは事業者としてあまりに無責任ではないか。長崎大学は、敷地内さえ禁煙が保てれば、近隣で住民が不快な思いをしよう自分たちには関係ないということなのか。

住民として、『この程度の管理体制で何が世界最高水準か』との思いである。

そこで、協議会で全く触れられなかった、本件に関する長崎大学と戸田建設との協議内容について質問する。即ち、これまでの顛末について説明を行い、そして今後の問題解決方法、ルールや罰則等について、具体的に示していただきたい。

建設工事では、これから内装関係等、新規の下請業者も次々と現場に入ってくるであろう。このことから、長崎大学は住民に対して、根本的な解決策を示すべきであると考えがいかがか。

2. 寺井委員の質問について

軍事研究・デュアルユースについて、同委員はBSL4の基本構想や長崎大学の研究者規範を根拠に『本協議会においてこれ以上の議論は必要ない』と結論付けている。

けれども、調議長も述べた通り、長崎大学は今後策定するBSL4の運用規定の中にデュアルユースについて明文化することを検討すると言っており、住民としてこの議論は終結したものではないと考える。このことについて、長崎大学の見解を問う。

なお本論は、第30回地域連絡協議会の議論からも明らかである。議事録要旨（第32回、資料6）の9ページから11ページを参照されたい。

3. 道津委員の質問について

質問1. は『長崎市はBSL4の危機管理をどのようにするつもりか。また、緊急事態が発生した時に住民への伝達方法をどのように考えているのか』というもので、これに対して長崎市の回答は以下の通りであった。

(二段目)「長崎市としましては、完成後の施設を使用して行われる様々な検証や訓練を通して、どのような伝達手段が効果的か、引き続き長崎大学と検討するとともに、特定一種病原体を用いるまでには準備が整うよう、住民の皆様と御相談しながら進めてまいります。」

そこで長崎市に質問であるが、本件に関して、現時点において長崎大学とどのような検討を行い、どのような準備作業を進めているのか、住民にわかるよう、具体的に示していただきたい。

4. 梶村委員の質問について

(1) 先ず、1. 議論のあり方、今後の議論について、の4段目については回答が無かったので再質問する。それは、「さらに、長崎大学は、今後の協議会において、この『地元自治会からの長崎大学への要望事項』について継続して議論を行い、住民が十分納得できるような回答を得ることで、住民との合意形成に努めるべきと考えるがいかがか。」というものである。

要するに、第31回地域連絡協議会で自治会が提出した要望事項は、いずれも、たった一回の回答で結論の出るような問題ではなく、今後地域連絡協議会において継続して議論し、きちんと結論付けることが必要とされる重要課題である、ということ述べている。

この点を長崎大学はどのように考えるか、質問する。

(2) 上記をふまえて、以下に各要望事項について、意見と質問を述べる。

①施設の安全管理と危機管理対策について

長崎大学の回答から、現在策定が進められている『感染症発生予防規程』を骨子、基礎として、BSL4施設の『安全管理マニュアル』や『運用規定』等がつくられていくものと理解する。

そこで、『感染症発生予防規程』については、現在60条の策定が進んでいることから、現時点での条文案を地域連絡協議会に示していただきたい。施設竣工後、実地検証後に示されても、住民の意見を述べるタイミングを逸すると考えるのがその理由である。

同様の理由から、『安全管理マニュアル』『運用規定』についても、現時点における情報を地域連絡協議会に示していただきたい。

②想定される事故と対応策について

長崎大学は、『施設を起点とするパンデミック（世界的流行）が発生する可能性は、取り扱う予定のウィルスでは想定し難い。』という。

けれども、パンデミックに至らずとも、施設内での感染事故が施設の外での二次感染、三次感染という『感染拡大』を引き起こす可能性があることについては大学と住民との共通認識であり、施設内の安全管理同様、施設外における万が一の事態を想定した対応策が準備されるべきと考えるがいかがか。

また、長崎大学は『地域に感染者が発生しても、近隣住宅地の住民全般を対象に避難計画が必要になることは考えにくい。』という。

前回の繰り返しになるが、このような長崎大学の姿勢は危機管理の基本原則を欠くものであり、これでは住民の不安や心配は払拭されないと考える。

住民が要望しているのは、『長崎大学として、万が一感染事故が起こった際には、このような対応を行うことで、地域の安全を守ってまいります。』という確固とした姿勢であり、具体的な危機対応策なのだと考えるがいかがか。

③住民に被害が生じた場合の補償内容を文書で示すについて

残念ながらこの問題に関して、長崎大学・国と住民との議論は全くかみ合っていない、という感想を持った。

住民が、具体的な補償内容について示すことを要望しているのに対して、長崎大学や国はあいまいな回答に終始し、誠実に答えようとしていない、と住民の目には映ったのである。

（長崎大学の回答）について

長崎大学は大学資金として年間予算が約500億円（大学病院を含む）と言うが、それはフローであってストック（資産）ではない。年度の予算は、それを使い切れればゼロになるということである。そこで質問だが、①長崎大学には現在、万が一の補償に足るだけの、十分な現金資産があるのか、②もしくは長崎大学は、毎年の予算から補償に備えて積立金を準備していくことを検討しているのか。

次に、国立大学法人総合損害保険については、その保険金が20億円とのことであったが、これは一つの大学に対して支払われる最高額なのか、それとも当該保険に加入している大学全体に対する保険金総額なのか、質問する。また、一般的には、一件の事故に対して支払われる保険金には限度額が定められているという。そこで、当該保険の一事務あたりの限度額がどうなっているのか、質問する。

（文部科学省の回答）について

万が一の事故等、緊急時に際して国は、『関係省庁が連携しつつ政府一体となって必要な対応を実施する』というが、それならば、責任の所在というものが事前に明確にされる必要があると考えるがいかがか。事故が発生した際の対応はどの省庁がどのように行うのか、また、住民に対する補償についてはどの省庁が責任を持つのか、等々の体系だった仕組みを前もって準備して、住民の不安に応えることが必要ではないか。一般論であるが、これまで、国が責任の所在を明らかにしてこなかったことによって、薬害等の不幸な事態を招いてきたのではないか。

④住民との継続的なコミュニケーションについて

この地域連絡協議会や、そして竣工後も住民が意見を述べ、大学と議論する機会が設けられるというのは住民にとって望ましいことである。

そこで前回の繰り返しとなるが、住民として様々な意見が出せる仕組みづくりを行い、議論の質を高めていくことが求められているのではないか。

この地域連絡協議会を一住民として傍聴していて、残念に思うことが多々あるので、今後の会議のあり方については、住民目線で見直し、改善していただきたい。

(3) 2. について（要望事項について、スケジュール・工程表）

長崎大学の回答は、①施設の安全管理と危機管理についてのみであり、その他の要望事項、即ち、②の想定される事故と対応策や③の住民に被害が生じた場合の補償内容については触れられていない。④の住民との継続的なコミュニケーションについても同様である。

長崎大学は、施設の安全管理と危機管理については、それが施設を稼働させるための必須条件として重要と考える一方、その他の住民からの要望については、優先順位を低く見ているのではないか。それでは住民と向き合う姿勢とはいえないのではないか。

全ての要望事項について、今後議論し、結論付けていくためのスケジュール、工程表というものを住民に示していただきたい。

5. 委員の資質について

ある委員から、前回第31回地域連絡協議会で議案となった自治会主催のアンケート結果について、住民の意見をまるで価値の無いものと切り捨てるような発言があった。

今回の自治会アンケートでは多くの地域住民がBSL4施設計画について真剣に考え、その思いを綴っている。このことは、地域の住民の声に真摯に耳を傾ける、という長崎大学にとっても貴重な意見のはずである。

しかるに、住民の意見を価値の無いようなものとして取り扱うというのは、地域連絡協議会の委員としての資質が疑われる。この点、長崎大学は委員の任命者としてどのように考えるのか、質問する。

事実、本件については地元住民から、「あん委員は何ね、住民のことば馬鹿にしとつとね。大学も大学さ、何でそいば注意もせんかね。」といった批判の声が上がっているのである。

なお、本論は地域連絡協議会における自由な議論を否定するものではない、ということ念のために付記しておく。

以上、毎回述べている通り、地域住民としての真剣な思いを記した。長崎大学、他の誠意ある回答を希望する。

令和2年11月11日

意見と質問

公募委員 江頭潔

- 1、BSL - 4 Report Vol. 1 (2020.8月創刊) が医学部キャンパス近くの6自治会3500所帯に配布されたと聞いていますが、私の自宅(江平2丁目)には不着でした。偶然、平和町の里中野郷会館(無人)の郵便受で9月3日に入手しました。また、Vol. 2(10月27日から配布)も里中野郷会館で11月5日に見つけましたが、11月11日になっても自宅には不着です。ポスティング業者委託の配布は階段の上の家とか大きい道から離れた家には入らない欠点があります。今後もシリーズで発行されますので、近隣住民の理解と協力を得るために全所帯に確実なる配布が肝要です。当協議会に参加の6自治会の特別の協力をいただいて各区の班長を通じて区市の広報と同様に配布すると自治会加入者には確実に届くと考えられます。ポスティングの予算を自治会に回すと僅かながらも自治会の収入になります。自治会の加入率も気になりますが配布方法の検討は如何ですか。ほかに新聞折り込み等の方法もあります。また医学部キャンパス地元の坂本町の自治会が当協議会に欠席されていますが、坂本町の地域住民の声を反映して頂くことも大切と考えます。会長が出席できない場合は自治会役員の代理出席を要請されたら如何でしょうか。
- 2、新刊「死者ゼロの真相」(長崎大学河野茂学長監修、濱田久之内科医副学長編集10月発行)を読みました。長崎クルーズ船新型コロナ災害の際、国、県、市、長崎大学など関係機関が連携し、感染症の危険性を感じながらも、命がけで支援に当たった医療従事者の思いが描かれています。死者ゼロに至った緊迫した舞台裏の激闘や経過が克明に編集され、専門用語は少なく、長崎の方言も交え中高生でも読みやすく執筆されています。長崎大学医学部の建学の基本理念・オランダ軍医ポンペの言葉を肝に銘じた医療従事者の使命感が窺えて感銘を受けました。また当協議会委員の森田公一委員、安田二郎委員の論文も収録されています。まだ読まれていない方には是非読んで頂き、感染症予防対策の一助にして貰いたいと思います。
- 3、「BSL - 4施設を中核とした感染症拠点の形成」が文科省の「ロードマップ2020」に採択(9月24日)され、渦中の日本学術会議が策定した「マスタープラン2020」の科学的な評価に沿って審議が進められ、高い評価を受けたと認識しました。次のステップ文科省「大規模学術フロンティア促進事業」での採択を目指すとありますが、具体的な計画や対応はどの様に進むのでしょうか。

前回（10/14）開催の第32回地域連絡協議会において、陽圧防護服について説明を受け、技術者が実際に使用する際の行動をチェックリストとして作成してみました。あくまで、（案）として作成していますので、地域連絡協議会において、議論して委員の皆様のご意見を反映していただきますよう、宜しくお願い致します。（「陽圧防護服使用時チェックリスト」）

実験者の情報確認項目も、現時点でわかる内容をリストアップしてみましたので、併せてご確認いただきますよう、お願いいたします。
（「実験者の情報確認項目」）

確認すべき内容は、まだ残っていますので、チェックリストを作成していただくことを要望します。

行動が一目瞭然に目視出来ることにより、作業を行う技術者だけでなく、第三者の管理者にも分かりやすく、行動を確認することが出来ます。

リスクアセスメントに基づく対応を検討していくにあたっては、具体的な対応をこのような形式で記載することにより、住民にとってもどのようなことが行われているのかを把握することが出来ます。

これが纏められていけば、やがては安全安心に繋がることとなります。

是非、地域連絡協議会において、委員の皆様全員で検討していただきますよう、お願いいたします。

以 上

陽圧防護服使用時チェックリスト

作業日時		0000.00.00	0000.00.00				
開始時間		0:00	0:00				
終了時間		0:00	0:00				
技術者氏名		技術者 A	技術者 B				
座学、実地、実技実践訓練	防護服	受講済	受講済				
	薬液シャワー	受講済	受講済				
入室前準備	心身状況	良好	良好				
	相方氏名	技術者 B	技術者 A				
	防護服点検	レ	レ				
	インナースーツ点検	レ	レ				
	インナーグローブ	レ	レ				
	無線機	レ	レ				
	ダクトテープ	レ	レ				
実験室前室 (脱衣室・更衣室)	私服脱衣	レ	レ				
	インナースーツ着用	レ	レ				
スーツ室での着用	防護服	レ	レ				
	インナーグローブ	レ	レ				
薬液シャワー室	薬液を浴びる	レ	レ				
BSL-4実験室入室	実験	レ	レ				
薬液シャワー室	薬液を浴びる	レ	レ				
スーツ室での脱衣	インナーグローブ	レ	レ				
	防護服	レ	レ				
	インナースーツ	レ	レ				
実験室後前室	個人シャワー	レ	レ				
	私服着用	レ	レ				
退室後 点検、保管、記録	陽圧防護服	レ	レ				
	防護服用グローブ	レ	レ				
	インナーグローブ	レ	レ				
	無線機	レ	レ				
	記録	レ	レ				
	保管	レ	レ				
実験室での問題	報告	無し	無し				

実験者の情報確認項目

1. 採用時	
	氏名
	性別
	年齢
	現住所
	国籍
	健康状態
	既往症
	家庭環境
	学歴
	資格
	専攻
	研究実績
	人物審査
	交友関係
	金銭トラブル
2. 採用後	
	教育訓練
	実技実習
	適正確認
	定期的な健康確認
	身長・体重・服サイズ

3. 実験室～実験中～実験後	
	各段階で定期的に行う
	検温
	アルコール摂取確認
	心身の健康状態確認
	第三者による確認
	作業内容確認
	防護服点検、着脱
	薬液シャワーを浴びる
	研究者同士の相互確認
	インナーグローブの確認
	記録・報告書作成
	防護服の保管
	管理者による監視